



今月のテーマ 「転倒・転落事故への対応策～人的対策編～」

今月号では、これまでにリスクマネージャーインタビューなどでいただいた情報から、転倒・転落事故を防止するための人的な対応策をご紹介します。ぜひ参考にしてください！

転倒・転落事故への段階別対応策

①入院時

【対策】
アセスメント

②行動前

【対策】
・環境整備
・**人的対策**

③行動後

【対策】
物的対策

④事故発生後

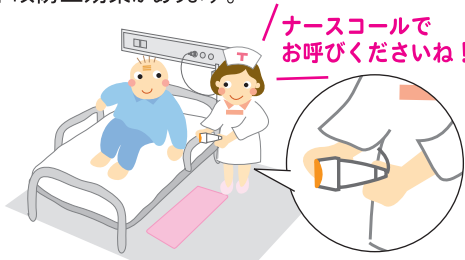
【対策】
物的対策

杉山良子 『転倒・転落防止パーフェクトマニュアル』より

入院時のアセスメント後、アセスメントの結果によって対象者が行動を起こす前に、環境整備と共に様々な**人的対策**が実施されています。具体的にどのような対策をされているか見て行きましょう！

ナースコール指導の徹底

転倒・転落事故は、対象者が単独で行動した時に発生する事が多いと言われています。
行動したい時にナースコールを使用するよう、指導を徹底する事で事故防止効果があります。



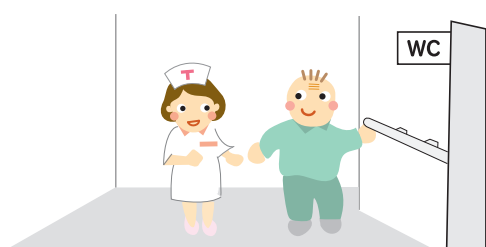
対象者の見守り強化

アセスメントにより転倒・転落リスクが高いと判断された対象者には、スタッフによる見守り強化策が採られる事も多くあります。ただし、夜間などスタッフの人数が限られる時は対応が困難です。



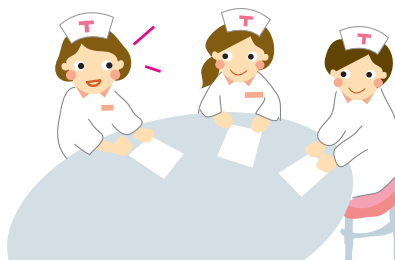
移動・排泄介助の徹底

転倒・転落事故は、対象者が単独で移動中に発生する事が多いと言われています。
対象者の移動や排泄の際の介助を徹底する事で事故防止効果があります。



対象者の情報共有

アセスメントだけでは見えにくいリスクもあります。担当スタッフが感じた事をカンファレンスや申し送り時に発表する事で、スタッフ間で情報を共有し、新たな対策を検討する事ができます。



来月のテーマ 「人的対策を補助する様々な物的対策」をご紹介します！ご期待ください。